

## 自立活動グループ①

### U児の不適切なふるまいへの対応(自立活動の時間における指導より) ～注目・行為要求の音声言語への移行と楽しみのもてる遊びを見つける～

新保利久

#### 1. はじめに

本研究は、不適切なふるまい(不適切行動)がある一人の児童についてその行動の機能を推測して適切な代替手段への移行を試みた自立活動における事例研究である。

#### 2. 対象児の実態

U児(小学部4年)男児

##### (1) 不適切なふるまいの例

- ・友達、教師を叩く。
- ・本棚の本を落としたり、花瓶を落としたり、花瓶を倒したりなどの行動をとる。
- ・ズックを投げたり、組み立てブロックを蹴ったりする。

##### (2) 検査結果

KIDS 総合発達年齢2:0(H15.7.23)

運動2:9 操作2:1 理解言語3:1 表出言語3:0 概念1:6 対子供1:6

対成人0:10 しつけ3:9 食事2:5

MAS (Motivation Assessment Scale) (藤原・平澤:2001, 2002)

感覚4.25 逃避1.0 注目2.75 要求1.0

MASによると本児の不適切なふるまいの機能は感覚と注目であると推測される。

また、普段の様子を観察から不適切なふるまいの機能は「注目・行為要求」「感覚の獲得」の他に「ストレスからくる情緒不安」が推測された。

#### 3. 自立活動の時間における指導の年間目標

自立活動の時間における指導ではU児の不適切なふるまいの対応への支援に重点を置いて以下の2つの目標を設定した。

①ことばによる注目要求や行為要求ができる。

②物を投げたり、落としたりすることなく適切な活動をして過ごせる

指導対象とした機能は「注目・行為要求」「感覚の獲得」である。

#### 4. 指導の方針

〔注目・行為の要求に対して〕・・・年間目標の①に対応

・相手にかまってほしいことを『叩く、蹴る』の行為ではなく一語発話があるので「先生」「○○ちゃん」と呼名することをその都度教える。呼名や動作語がでる時もあるので定着をはかる。呼名には即応する。

以上のような手だてにより呼名という注目要求の新手段の獲得や定着を促すと共に、かわってもらえる満足感が得られれば『叩く、蹴る』の行為が減るのではないか。

評価の観点： 音声言語による注目・行為の要求の割合が増えたか

〔感覚の獲得の不適応行為に対して〕・・・年間目標の②に対応

- ・好きな遊びをしている時は不適応行為が見られないことが多いようなので、本児の興味や発達に合わせた活動を探したり設定したりして、自分の好きな遊びをしながら過ごす習慣を身につける。(井上：2004)
- ・感覚の獲得の機能の不適応行為(物を投げる、落とす)には片付けや元に戻すことをその都度課す。
- ・ボールを蹴る、積み木のドミノ倒しなどの遊びで「蹴る」「倒す」楽しみを代替していく。

以上のような手だてにより『物を倒す、落とす』などの不適応行為が減るのではないか。

評価の観点： 楽しみのもてる遊びを見つけて遊んでいるか

評価の観点： 感覚の獲得の不適応行為が減少したか

## 5. 指導の実際と評価

### 1 学期

短期目標	指導内容と手だて																		
①叩きの代わりにできるかぎりことばで要求する (年間目標①に対応) ②楽しみのもてる遊びを見つけて遊びながら不適切なふるまいをすることなく一定の時間を過ごせる (年間目標②に対応) ※①②は「指導内容と手だて」および「評価」の①②の項目に対応している。	①注目の機能の「叩き」には過剰に反応しない。呼名や動作語(こちょ こちょ、すもう)をその都度教える。 ②日頃の本児童の遊びの様子から観察された好きな活動のパズル、本読み、生花などを机上に準備しておく。教師は積極的に本児に注意を向ける。																		
	評 価 (指導回数 5 回)																		
	① 音声言語による注目・行為要求の割合が増えたか																		
	<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">月</th> <th rowspan="2">全要求数</th> <th colspan="3">内訳</th> </tr> <tr> <th>叩き</th> <th>叩き+音声言語</th> <th>音声言語</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>6月</td> <td>6回</td> <td>0回</td> <td>1回</td> <td>5回</td> </tr> <tr> <td>7月</td> <td>3回</td> <td>1回</td> <td>0回</td> <td>2回</td> </tr> </tbody> </table>	月	全要求数	内訳			叩き	叩き+音声言語	音声言語	6月	6回	0回	1回	5回	7月	3回	1回	0回	2回
	月			全要求数	内訳														
		叩き	叩き+音声言語		音声言語														
	6月	6回	0回	1回	5回														
	7月	3回	1回	0回	2回														
	「叩き+音声言語」は「こちょこちょ」と言って叩く]ものであった。(6. 24自立活動時) (図1参照)																		
	② 楽しみのもてる遊びを見つけて遊んだか																		
<table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th style="width: 50%;">休み時間 (不定期観察)</th> <th style="width: 50%;">自立活動時</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自転車にのる</li> <li>・ブランコにのる</li> <li>・教科書を見る</li> </ul>           など         </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本棚から国語の教科書を取り出して見る</li> <li>・棚からけん玉を取り出して約5分間遊ぶ</li> <li>・指導の部屋で15~20分過ごした後、部屋から出て行く。</li> </ul> </td> </tr> </tbody> </table>	休み時間 (不定期観察)	自立活動時	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自転車にのる</li> <li>・ブランコにのる</li> <li>・教科書を見る</li> </ul> など	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本棚から国語の教科書を取り出して見る</li> <li>・棚からけん玉を取り出して約5分間遊ぶ</li> <li>・指導の部屋で15~20分過ごした後、部屋から出て行く。</li> </ul>															
休み時間 (不定期観察)	自立活動時																		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・自転車にのる</li> <li>・ブランコにのる</li> <li>・教科書を見る</li> </ul> など	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本棚から国語の教科書を取り出して見る</li> <li>・棚からけん玉を取り出して約5分間遊ぶ</li> <li>・指導の部屋で15~20分過ごした後、部屋から出て行く。</li> </ul>																		
感覚の獲得の不適応行為が減少したか																			
<table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th style="width: 50%;">休み時間 (不定期観察)</th> <th style="width: 50%;">自立活動時 (図3参照)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・倒す(椅子、自転車、花瓶)</li> <li>・投げる(椅子)</li> </ul>           などの行為が見られた。         </td> <td>           ・指導回数5回の中で物を落とす、投げるなどの行為が4回みられた。         </td> </tr> </tbody> </table>	休み時間 (不定期観察)	自立活動時 (図3参照)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・倒す(椅子、自転車、花瓶)</li> <li>・投げる(椅子)</li> </ul> などの行為が見られた。	・指導回数5回の中で物を落とす、投げるなどの行為が4回みられた。															
休み時間 (不定期観察)	自立活動時 (図3参照)																		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・倒す(椅子、自転車、花瓶)</li> <li>・投げる(椅子)</li> </ul> などの行為が見られた。	・指導回数5回の中で物を落とす、投げるなどの行為が4回みられた。																		

短期目標	指導内容と手だて				
①「叩き」の際にことばを併用する (年間目標①に対応) ②楽しみのもてる遊びを見つけて遊びながら不適切なふるまいをしないで一定の時間を過ごす (年間目標②に対応) ※①②は「指導内容と手だて」および「評価」の①②の項目に対応している。	①一学期に同じ。 ②適切な活動機会を増やすために、子どもの興味や発達に合わせた活動を探したり、設定したりする。				
	評 価 (指導回数 8 回)				
	① 音声言語による注目・行為要求の割合が増えたか				
月		全要求数	内訳		
			叩き	叩き+音声言語	音声言語
9 月		5 回	1 回	1 回	3 回
10 月		6 回	0 回	0 回	6 回
11 月		2 回	0 回	0 回	2 回
12 月		4 回	0 回	0 回	4 回
「叩き+音声言語」は「[「こちょこちょ」と言って叩く] (9.11 自立活動指導時)、[「すもう」と言って叩く] (9.27 朝の自由遊び時) であった。(図 1 参照)					
② 楽しみのもてる遊びを見つけて遊んだか					
休み時間 (不定期観察)			自立活動時		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ニューブロック (学研)</li> <li>・プラレール (トミカ)</li> <li>・手遊び『一本橋』『東京都』</li> <li>・ブランコに約 3 分間乗る</li> <li>・コミカル自動販売機 (TOMY)</li> <li>・くるくるチャイム (くもん)</li> <li>・とんとんボール (Nichigan)</li> <li>・ミニテニス</li> <li>・自転車に約 5 分間乗る</li> <li>・くるくるスロープ (くもん出版)</li> <li>・キーボードを鳴らす</li> <li>・ドミノ倒し</li> <li>・けん玉 など</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・積み木でドミノ倒しをする</li> <li>・棚から文字積み木を取り出して 50 音順に並べる</li> <li>・アンパンマンの文字板</li> <li>・本棚から「はらぺこあおむし」の本を取り出して教師に読み聞かせを要求する</li> <li>・指導の部屋で 25～30 分過ごした後、部屋から出て行く。</li> </ul>		
○倒されたら困る物からドミノ倒しのように倒してもよい物へと対象物の代替移行を期待したい。					
○1つの遊びをじっくりすることは見られないが「これで遊んでみよう」という意欲を評価したい。					
感覚の獲得の不応行為が減少したか					
休み時間 (不定期観察)			自立活動時 (図 3 参照)		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・倒す (自転車)</li> <li>・投げる (ズック)</li> <li>・蹴る (消火栓、積み木) など</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導回数 4 回の中で物を落とす、投げるなどの行為は見られない</li> </ul>		

図1, 2は注目・行為要求の手段の割合を自立活動時と給食時について調べたものである。

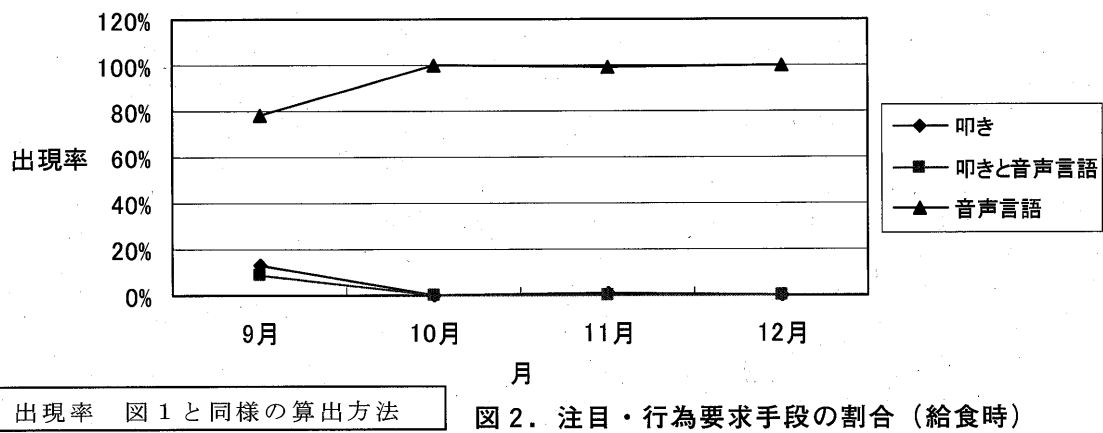
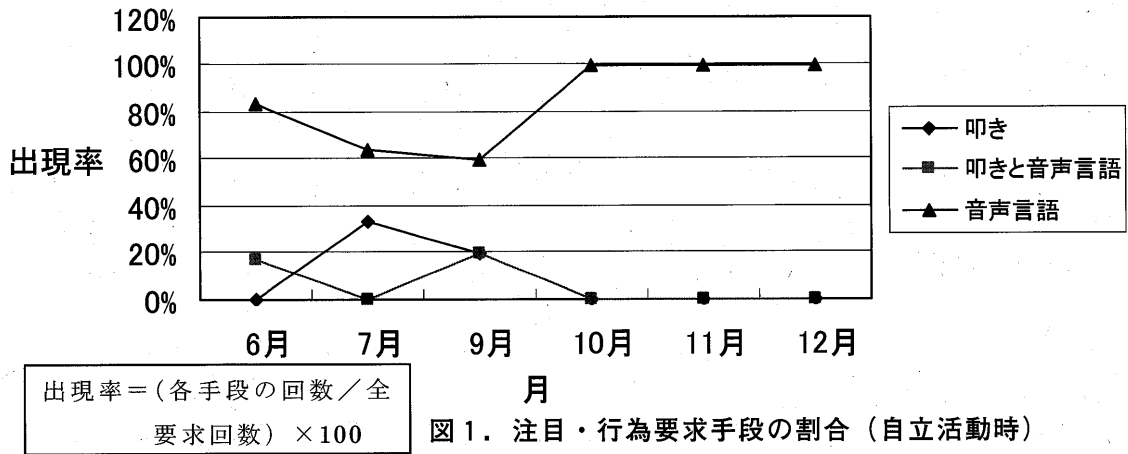


図3は感覚の獲得の不応行為の回数の推移 (自立活動時) である。

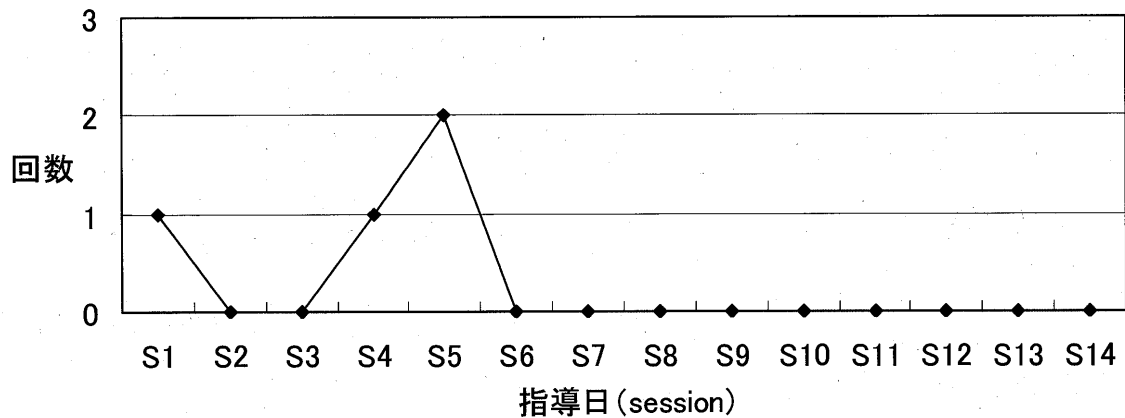


図3. 感覚の獲得の行為の回数 (自立活動時)

## 6. 考察

### 音声言語による注目・行為要求の割合が増えたか

1学期の短期目標に「できるかぎりことばで要求する」を掲げて注目・行為要求の「叩き」が見られる度にことばの使用を促したところ、叩きとことばの併用がみられた。その後は「叩き」の割合が減少した (図1, 2)。「叩きとことばの併用」がみられるよう

になったことは、「叩きのみ」の行動からの変化ととらえられないか。今後の推移を見守っていききたい。

音声言語による注目・行為要求はこれまで全くなかったわけではない。芽のあることながらについてその芽を伸ばして定着していくことが重要と考える。

### **楽しみのもてる遊びを見つけて遊んだか**

本児の遊びの種類を観察してみると、ブロック・パズルなどの構成遊具や自転車・ブランコなどの身体活動遊具、そして手遊び・ミニテニスのような相手とのやりとりをする遊びというように遊びの範疇に多様性が見られた。本児は幼児雑誌の付録作りも好きと聞いている。生け花も好きなことから、製作や創作が好きな様子も推測できる。これらの遊びが将来の趣味や作業につながることを期待したい。

### **感覚の獲得の不応行為が減少したか**

物を投げたり、落としたりする行為は session 6 (S6) 以降は自立活動時には見られなくなってきた (図3)。楽しみのもてる遊びをすることで結果的に不適切なふるまいをすることなく一定時間を過ごすことができる可能性がある。

「蹴る」「倒す」対象物を代替移行していく試みは積み木のドミノ倒しやサッカーボール蹴りで行なった。それぞれの遊びには意欲的であったが代替移行については今のところ定着とは言い切れない面がある。

休み時間には、以前に投げたり、蹴ったりした物があると (例えば組み立てブロック) そのことを覚えているのか再びそのような行為がでることもある。投げたり、蹴ったりしたくなる物をなるべく目にする場所に置かないことも対策の一つであるが他の児童がそれで遊ぶこともあるので、本児には、投げたり、蹴ったりしてもよい物、いけない物をその都度説明して理解させていきたい。

## **7. まとめ**

一人の不適切なふるまい (不適切行動) がある児童についてその行動の機能を推測して適切な代替手段への移行を試みた。

注目・行為要求の音声言語への移行の試みでは「叩き」と「音声言語」の併用が現れた後、音声言語への移行が見られた。

楽しみのもてる遊びをすることで結果的に不適切なふるまいをすることなく一定時間を過ごすことができた。

感覚の獲得の機能の不応行為 (物を投げる、落とす) の対策としての片付けや、元に戻すことをその都度課す試みと、対象物の代替移行への試みについては指導仮説の検証までには至らなかった。引き続き経過観察を続けたい。

### **<参考文献>**

1. 藤原義博 平澤紀子「講座 自閉症 行動問題への理解と包括的な支援」  
実践障害児教育 (2001. 4 ~ 2002. 3) 学習研究社
2. 井上雅彦「多動な子どもにどう対応するか？」実践障害児教育2004. 9 学習研究社